

かぐらおが

(題字は初代学長 山田守英氏)

第 132 号

平成20年 3月24日

編集 旭川医科大学
発行 教務部学生支援課



氷瀑まつり (上川町層雲峡温泉)

(写真撮影：学生支援課)

「高い志、深い配慮」を……………吉田 晃敏………… 2	一年を振り返って……………坂田 菜月………… 10
医学科第30期生を送るにあたって…藤枝 憲二………… 3	一年を振り返って……………中内 蘭子………… 10
看護学科第9期生を送るにあたって	外国人留学生冬季交流事業……………11
……………服部ユカリ………… 4	ギター部ニューイヤーコンサート……………11
卒業にあたって……………青山 藍子………… 5	平成19年度 1年のあゆみ……………12
卒業にあたって……………祝原 賢幸………… 5	各種保険について……………14
卒業にあたって……………佐藤 剛………… 6	平成20年度日本学生支援機構奨学生の募集……………14
医学科第30期卒業生名簿……………6	平成20年度前期分授業料免除及び延納・分納について ……14
卒業にあたって……………飯野かなえ………… 7	授業料未納による除籍について……………15
卒業にあたって……………井上 朋美………… 7	セクシャルハラスメントについて……………15
看護学科第9期卒業生名簿……………8	新入生歓迎合宿のご案内……………15
平成19年度修士・博士学位記授与者名簿……………8	学生団体の「継続届」「設立届」の提出について ……16
一年を振り返って……………西條 正二………… 9	教員の異動……………16
一年を振り返って……………坂本 鉄志………… 9	体育館更衣室について……………16



「高い志、深い配慮」を

旭川医科大学長 吉田 晃 敏

医学科第三十期生九十六名の皆さん、この「三十期」という大学にとっても節目の時期での医学士学位記取得（以後教育の節目ということで卒業という言葉を使います）、本当におめでとう。私も、遡ること三十年前、初代学長の山田守英先生から、皆さんと同じこの体育館で卒業証書を頂いたのを鮮明に記憶しています。並びに看護学科第九期生七十名の皆さん、看護学士の学位取得、ご卒業おめでとう。卒業生の皆さんはもとより、ご父母の皆様にとっても、感慨は一入と思い、重ねてお祝いを申し上げます。

ご承知の通り旭川医科大学は、「医師不足解消」をスローガンにした「一県一医大構想」に基づき、今から35年前の昭和48年に誕生しました。既に医師不足が叫ばれ始めていたこともあり、本学の開校は、地域医療の未来にとって極めて明るいニュースであり、道民の期待を一身に受けておりました。

しかしながら、今から10年程前には、逆に「医師過剰論」がまことしやかに登場したのです。当時は、10年後には1万5千人の医師過剰、30年後には2万6千人の医師過剰となるとまで言われておりました。ところが現実はどうでしょうか。あれから10年後の現在、医師不足は逆に深刻さを増しております。特に平成16年度以降、新たな臨床研修制度がスタートしたことで、大学に残って研修を続ける医師の数が激減し、地方の医師不足は極めて大きな問題となっています。道内も至る所で診療科の休診が相次ぎ、閉鎖に追い込まれる病院も後を絶ちません。10年前の予測は明らかに誤りでした。

そして今、看護師も不足しています。入院患者7人に1人の看護師が担当する、いわゆる7：1看護体制を、国が理想の看護体制であると推奨して以来、看護師のニーズは一気に高まり、看護師不足は全国的に深刻な問題となっています。旭川医科大学病院においても、看護師不足は依然続いております。このような医師不足・看護師不足という厳しい状況のなかで、地域の医療をいかに守るか、これが喫緊の大きな課題となっています。

この様な状況の中で、今、本学の果たす役割が、すなわち、卒業生の医師、看護師の皆さんの果たす役割が益々重要になって来ました。皆さんは期待されているのです。医療人は、期待されればされるほど、益々力が出るものです。どうか、今のこの状況をチャンスと捉え、「旭川医科大学の卒業生」として、国民の期待に応えるよう、それぞれの職場で全力を尽くして下さい。それが、皆さんに課せられた使命です。

旭川医科大学は、皆さんの卒業後も勿論、皆さん

に最大限の支援をします。皆さんの中で、本学で医師の初期研修を行う方に対しては、2年間、月額20万円を貸与し、将来、地域の病院に2年間勤務を行った場合は返還を免除する制度、「出口の改革」を来月からスタートさせます。また、本学の教育理念である「地域医療に根ざした医療・福祉の向上に貢献する医療者を育てる」に基づき、本学では、北海道で頑張る医師を育てようと、皆さんの後輩達に対し、国公立大学では初めての入学試験の「地域枠」を定員の50パーセントまで引き上げる、大学の「入口の改革」を断行しました。

さらに、本学病院に勤務する看護職などのコミニカルに対しては、学外での研修費を全額、大学が支給する優遇策を、学長就任後間もない昨年7月から導入しました。これは、国立大学病院では例がない優遇策です。

今回打ち出した制度改革を通じ、北海道の地域医療に取り組む医師・看護師は我々が責任を持って育てていくのだという強烈なメッセージを、内外へ示すことが出来たと考えております。

さて、今、大人の見識、親の見識、など「見識」という言葉が、注目されています。医師不足、医療格差拡大、地域医療崩壊という現状の中で、「我々医療人に望まれている見識」とは、「高い志、深い配慮」だと、私は思っています。「高い志、深い配慮」。志を高く、高く持って、患者さんのため、医学のため、看護学のため、頑張ってください。人生は、一回きりです。皆さんは、今、非常に厳しい環境の中にあっても、先程述べた様に、大きな期待を受けて、逆に、非常に、非常に恵まれたチャンスを掴んでいることに早く気づいて下さい。私は、「志の高さが、卒業後の皆さんの将来を決める」と思っています。また、我々医療人には、患者さんとその家族に対して、「深い配慮」が必要です。さらに皆さんの回りにいる仲間達にも、深い配慮が必要です。私は、「配慮の深さが、医療人としての皆さんの価値を更に高める」と信じています。

私は学長として、皆さんが学んだここ旭川医科大学を、皆さんが益々誇れるような大学へと飛躍させていきたいと思っております。皆さんも是非、次の一步を踏み出す医学・医療の実践の場において、志を高く、そして深い配慮を忘れない医療人に成長されることを期待しております。母校に残られる方々とは、共に母校の改革を行いましょう。この度母校を出られる方々とも、近い将来、改革後の母校で共に働くことを、心から待ち望んでいます。出来ることは、いつでもお手伝いします。

皆さんの今後のご活躍を、心から願っています。



医学科第30期生を送るにあたって

医学科第6学年担当 藤 枝 憲 二

医学科第30期生の皆さん、卒業おめでとうございます。

医師になるという強いところざしをもって入学し、それを今日まで持続して医学・医療に関する知識・技術のみならず、人格の陶冶など多くのことを清新の気風あふれる旭川医科大学で学ばれたことと思います。まず、皆さんのこれまでの研鑽とその成果を賞賛するとともに、輝かしい未来を心から祝福したいと思います。旭川医科大学の卒業生であることを誇りにし、また、この大学が一生の心の拠り所となりうることを願っています。

皆さんの大多数は、今後、臨床医として医療の第一線で活躍することになろうかと思えます。自立した医師となるには、卒業後の研修が極めて重要であることはいまでもありません。特に、研修初期には、技術の習得に一生懸命になりがちです。しかし、医療にはおそらく正解はなく、与えられた条件から最善の答えを出すことが求められます。従って、もっとも重要なのは、目の前にいる患者さんの病態をどうとらえ、その原因は何であるのか、またどのように対処するのがベストなのかをシステムテックに考えられるようになることです。医学・医療は日進月歩であり、皆さんは医学知識や医療技術をリニューアルするために、生涯かけて研鑽に励まなければなりません。何時においても自ら学ぶ姿勢と考える習慣を涵養することが大切です。一方、医学研究の道を志すものは、知的好奇心をばねとしながらも、常に人間社会のありようと人類の未来を見据えた高い見識が求められます。

いずれの道に進むにしても、自分の将来の青写真を早めに描き、優れた医師の仲間やいいメンター（師）に出会うことです。そういう出会いが、君たちを成長させてくれるものと信じています。志を高くし、それぞれの分野で一流になってほしい。

やすきに流れず、初心を大切に、迷いが生じた時は原点に立ち戻ることです。常に前を向き、頑張っていると思います。

外山滋比古氏は、その著書「思考の整理学」のなかで、「人間にはグライダー能力（受動的な知識を得る）と飛行機能力（自分でものごとを発明、発見する）があり、両者は一人の人間のなかに同居している」と述べています。学校は、えてしてグライダー人間を作るのに適しているが、飛行機人間を育てる努力はほんのわずかしかなかった。自らの努力によりグライダーを卒業して、是非とも飛行機人間となるよう研鑽して欲しい。

今、日本の医療システムは、いわゆるアメリカンスタンダードの導入によって、混乱の極みにあります。すでにパンドラの箱は開けられて、どの方向に向かって行くのか定かではありません。渦中にある皆さんが積極的に日本の医療制度の有り様を論じる必要があると思います。また、医師は「選ばれたものが担う職業」とされ、それらには「崇高な精神的義務（Nobles Oblige、ノブレス・オブリージェ）」が伴うとされています。皆さんは、医師として医療を実践するなかで、崇高な精神的義務とは何かを考えていただきたい。

最後に、皆さんが社会に出た時、必ずしも平坦で容易な道だけではなく、学生時代には体験したことのない様々な困難・制約に直面し、悩むことがあるかもしれません。6年間一緒に生活したという30期生の強い結びつきを生涯にわたって維持し、絆をさらに強くして難局に直面した時には是非とも一緒に乗り越えて行って下さい。卒業式も開かれず、学園紛争を巡る路線の違いで、しばらくは同一歩調をとれなかった団塊の世代の先輩からのアドバイスです。

（小児科学講座 教授）



看護学科第9期生を送るにあたって

看護学科第4学年担当 服部 ユカリ

看護学科第9期生の皆さん、卒業おめでとうございます。4年前、この「かぐらおか」で皆さんに、理論に基づいた知識と技術を体系的に学び、それを看護実践として表現できる能力を養うこと、そして豊かな人間性を育むため教養を深めることを期待すると述べました。これらを皆さんは身につけてきたことと思います。

しかし、自信と共に自分の知識・技術がどのくらい社会で通用するか、どれだけ教養は深まったのか不安に思っていることと思います。いえ、むしろ不安に思わない方がおかしいと思います。というのは、この大学生活の中で看護学の広大さ深さ難しさやそれと同じように他の学問の深遠さに気がついていくはずだからです。これを身をもって知ることが大学で看護学を学ぶ意義のひとつです。国家試験合格は看護系大学の教育の目的ではありません。目標のひとつに過ぎないのです。皆さんは、これから看護学を学び、教養を深めていくスタートラインに着く資格を得たに過ぎません。

学ぶことの大切さはどんな職業の人にも言えることですが、特に医学や看護学などを専攻し医療に携わっていく者は、一生学び続け自らの能力を高めていくことを約束した人間といえるのです。

また、社会人になるとあたりまえですが立場の転換がおこります。これまでは大学生とはいえ、教育を受ける立場でした。サービス受給者と言い換えても良いでしょう。権利は保障され、立場は保護されていました。しかし、社会人として看護職に就いたその日から、看護というサービスを提供する側になるのです。私は、看護や医療を提供する者は、専門職であると同時にサービス職でもあると考えています。専門的で相手の立場に立った看護というサービスをいかに心地よく受けもらえるように提供するかを日々考えることが必要になります。そこでは

自分の権利を主張することよりも、まず相手の権利を尊重し、守ることが優先されます。

さて最近、マスメディアでモンスターペイシェントと表現されている人も出現していると言われ、人とのコミュニケーションが以前に比べて難しくなってきた時代が医療現場にも反映されています。保健・医療の現場は時代や社会、政策の影響を直接的に受けています。その例は地方の医師不足、看護師不足、病院の縮小・閉鎖、介護難民、長期療養病床での胃瘻造設患者の急増など枚挙に暇がないくらいです。そのような現場に立ち、社会の動きを見据えながら、どう考え何を学び、どう生きていくのか、皆さんには大きな責任と期待がかけられています。ぜひすばらしい看護職者、信頼できる人になって欲しいと思います。

そのためには、周囲に流されたり、強い人のアジェンダに左右されることの無いよう自分の考えをしっかりとつこと、自分の考えを裏付けるために議論をしたり、いろいろな人の意見を積極的に聞いたり、自分で調べることも必要でしょう。一通のメールの真偽を十分確かめなかったために自分だけではなく党首までも失脚させることになったN議員のようにはならないで欲しいものです。

越えなければならない山はいくつかありますが、山登りには楽しさもあり、その先に新たな地平が開けているのは確かなことです。自身のこの4年間の成長を思うとき、将来の成長を確信できることと思います。また将来、もう一度大学で学びたいと思ったときはどうぞ母校の大学院を思い出してください。来年度からはがん専門看護師コースが設立される予定ですし、その後も改組等が行われがん以外の専門看護師のコースができる日も遠くないことと思います。きっといつそ皆さんを力づける存在になっていることでしょう。（看護学講座 教授）

卒業にあたって

医学科第30期卒業生 青山藍子



卒業を目前に6年間を振り返ると、5年生から始まった臨床実習のことばかり思い出してしまいます。決してそれまでの4年間を無為に過ごしてきたわけではありません。学期末の度に大変だった試験勉強、剣道を通しての先輩、仲間とのつながりや心身の鍛錬、友人と過ごした日々はどれをとっても忘れることのできない思い出ばかりです。しかし現場で働く先生方や患者さんとの関わりの中で過ごす毎日は、自分のやりたいことを考えているだけで済んだそれまでの生活では得難い経験を、私に与えてくれました。

学力も人間的にも未熟な私たち学生は患者さんの力になるどころか、むしろ迷惑ばかりかけていたことと思います。しかしそんな私たちに患者さんたちがかけてくれたのはいつも、『早くいいお医者さんになってね』という言葉でした。それは月並みな

一言に聞こえるかもしれませんが、治癒することのない病を背負いながらも病室で努めて明るく振舞っていた患者さん、術後まだ目の覚めない赤ちゃんの手をさすりながらそっと涙を流していたお母さん、たった1日でいいから家に帰りたいと呟いていた患者さんの姿を思い出すと、この言葉の重さ、医師という職業の果たすべき務めの大きさを感じずにはられません。そしてろくに食事を取る時間もとれないほどの激務をこなしながらも、いつも患者さんや他の医療スタッフに嫌な表情ひとつ見せずに接していた先生方の姿は、この先決して忘れることのない師の姿となりました。この先生方が多くの人々の生きる支えになっていることを患者さん自身の声から知りました。

この春、私たち第30期卒業生は臨床研修医として社会に出ることになります。これまでの学生という守られた立場から、全ての判断、行動に責任と人間性が問われる厳しい立場になります。数多くの困難、挫折を経験することと思いますが、私にかけがえのない6年間を与えてくれた母校、二浪を許してまで医師になる道を応援してくれた両親に恥じることはない、社会に貢献できる医師となるよう、これからも精進していきたいと思っています。

卒業にあたって

医学科第30期卒業生 祝原賢幸



私が医師を志したのは、中学生の時。

小学生の頃からお世話になっていた小児科医への、単なる憧れ。

* * * * *

行きつけの小児科医に「関取にさせるつもりか!？」と母親が言われるムチムチ乳児。卒園式で「給食を残さず食べたで賞」を頂く大食い幼児。道路脇に駐車してある自動車(ベンツとか...)に泥だらけのサッカーボールを何度も蹴り付け、建設中のマンションに侵入してセメントに靴跡を残し、よそ様の家の庭で基地作りに励み、親を謝罪マシーンとさせる小学校低学年生。ヴェルディ川崎の三浦選手(カズ)みたくブラジルにサッカー留学するぞ!と意気込みつつ、廃屋での基地作りを続ける小学校高学年生。所属する演劇部で最高のお爺さん役と賞され(?)、初恋にモガキながら夜中繰返して同じ曲を

聴き続けるニキビ面の中学生。何度も濡れながら練習して初めてクロール・平泳ぎができるようになり、焼肉屋でバイトしながら、苦手な数学を呪っている高校生。入学数ヶ月後、嘗ての師範の他界をキッカケとして剣道部の門を再び叩き、国家試験対策委員長でありながら、国家試験中も札幌のホテルで竹刀を振る大学生。

* * * * *

そんな「彼ら」が、曲がりなりにも今こうして医学部6年間の終了を迎えている。

そんな「彼ら」でも、ひとの健康をサポートする医師という職に間もなく就く。

医学部6年間、全ての始まりが『憧れ』。

全てを支えたのが『あこがれ』。

全てを今後連綿と続かせるのが『アコガレ』。

だから、

『憧れ』を見守って下さった方々に感謝!

『あこがれ』を共に追いかけた仲間へ感謝!

* * * * *

将来『アコガレ』を抱いてくれる子供たちのために、いざ!!

卒業にあたって

医学科第30期卒業生 佐藤 剛



よく6年間は早いという。確かにその通りだった。しかし、私には早いなりに1年1年を全力で過ごしたという満足感と重みがある。入学試験の緊張は今も忘れない。セミナー室の前を通ると面接を鮮明に思い出す。当時の絶対受かっ

てやるという気合、医師になりたいという原点を。進級試験期間中はセミナー室の前に行くことで当時を思い出し勉強のモチベーションを上げたものだ。

そして、6年間本気で取り組んだ部活動は宝だ。私はアイスホッケー部だった。アイスホッケー部に対する大方の印象はこんな感じだろう。「そんな部活あったの?」から始まり、「夏はやっているの?」というくらいのもの。ドンマイッ!でも中にはほぼ全試合応援に来たサポーター的存在もいる。実際は年中練習している。陰ながら東医体2連覇したことを宣伝、というより単なる自慢をさせて頂く。6年

間で1番多くの時間を部活動で過ごした。お互いを尊重する、同じ目標に向かって努力する、(時には根拠なく)自分たちを高める。東医体では勝利への期待、逃げ出したくなるような緊張感、負ける悔しさ、歓喜の涙……。これらの思い出はおそらく学生時代にしか味わえない一生の宝であり、教訓である。

また、障害者ホッケー=アイススレッジホッケーとの出会いも印象的だった。代表チーム合宿の手伝いをした時のこと。選手たちは日本の誇りをかけて懸命にプレーしていた。足に障害があるとは思えない高い技術だった。障害者への偏見が一つなくなった気がした。

こうして振り返って思うのは、私の場合は部活動だったが、何をやるにせよ(注:医学の勉強・実習を頑張るのは当たり前として…)何かに本気で取り組んだことは最高の糧になると後輩の皆さんに強く言いたい。

最後に自分を入学させてくれた大学「旭医!」、支えてくれた両親や親戚、実習等でお世話になった先生、学校関係者の皆さんへの感謝の気持ちは6年間忘れたことはない。今後はその気持ちを全力で還元していきたい。

卒業にあたって

看護学科第9期卒業生 飯野 かなえ



合格発表で自分の受験番号を発見した日から、もう4年の歳月が経過した。「大学生になっちゃうー!!」と、母に驚きと喜びの大声をあげた日が昨日のこのように感じる。あの頃の自分には、春からの大学生活への夢や希望、期待で満ち溢れていた。

大学生は遊んで暮らすという勝手な思い込みがあったのだ。しかし、実際の4年間の私の大学生活を振り返ってみると、これといって派手な思い出はない。想像していたような華やかな生活はなく、早く卒業したいとさえ思っていた。

しかし、今この原稿を執筆するにあたり、改めてこの4年間の思い出を思い起こすと、私が退屈だと感じていた4年間は、私にとってかけがえのない4年間であったと感ずることが出来る。私が大学生活を終えることができるのは、多くの人の支えや助けがあった

からである。知識や技術を授けてくださった教員や実習先での患者様、スタッフとの出会いは、今後の私の人生にとって重要な糧となるだろう。実習において、悔し涙を流したことも、感動の涙を流したことも、ともに私を成長させてくれた。また、私がつらかったときに、励ましてくれた友人たちには、本当に感謝している。彼女たちのおかげで、私は笑顔でいられた。そして、22年間ずっと1番傍で私を支えてくれた両親には、感謝してもしきれない。あんなに望んでいた一人暮らしも、いざ決まってみると寂しくてたまらない。淡々と過ごしてきた毎日が、こんなにも愛おしく感じるとは思わなかった。

このように細かく4年間の振り返ってみると、どの思い出も私にとってあたたかく、重要なものであった。春からの新生活に寂しさや不安はあるが、期待もある。ただ、変わらないのは、これからも私はたくさんの人に支えられて生きていくということである。人への感謝の気持ちを忘れずに、これからは私が誰かを支えられるような人になりたい。

みなさん、今までありがとうございました。これからもよろしくお祈りします。

卒業にあたって

看護学科第9期卒業生 井上 朋美



国家試験を終えて少しほっとしたところで改めて卒業することを考えると、たくさんの思いが込み上げてきます。もうお別れだと思つと、学校への道のりも、凍える寒さも、近くのコンビニも、当たり前で何気ないすべてが愛しく思えてきます。

部活勧誘の先輩達の勢いに圧倒されながら校門をくぐった日から、あっという間の4年間でした。看護師さんの後を追いかけてその日見たことを記録することで精一杯だった1年生、初めて患者さんを受け持ち、迷いながら看護について改めて考えた2年生、地域に出て病棟とは違う看護のかたちを知った3年生、求められることも高くなる中で長い実習期間を仲間と共に乗り越えた4年生。4年間の実習を振り返ってみると、少しずつ成長してきた自分と、

たくさんの患者さんや家族、看護職の方に出会うことができた喜びを感じることができました。そして何より、4年間の学校生活で得たかけがえのない宝物は、ずっと一緒に頑張ってきた同期のみんなです。国家試験の会場で久しぶりにみんなの顔を見て、声を聴いた時、言葉では言い表せないほど大きな安心感を覚えました。1人だったら、あの長い戦いは頑張れなかったと思います。4年間ずっと一緒に頑張ってきた仲間は、知らない間に、私にとって心のよりどころになっていました。それぞれ入学までのいきさつは違うとは思いますが、この年代に生まれ旭川医科大学に入学してみんなに出会えたこと、本当に良かったと思っています。

卒業するにあたって、ここには書ききれないほどの感謝の気持ちでいっぱいです。いつも熱心に指導してくれた先生方、共に笑い辛い時も励ましあって多くのことを乗り越えてきた友達、何でも話せていつも元気をもらっていた部活の仲間、そして私の選んだ道をいつだって応援してくれた家族その他支えてくれた多くの方々へ心の底から感謝しています。

平成19年度 課程博士学位記授与者名簿

氏名	授与年月日
村上 公一	平成20年3月25日
神保 絢子	平成20年3月25日
宮腰 昌明	平成20年3月25日
田中 宏樹	平成20年3月25日
佐久川 直子	平成20年3月25日
盛一 健太郎	平成20年3月25日
佐々木 高明	平成20年3月25日
田代 直彦	平成20年3月25日
澤田 潤智	平成20年3月25日
安井 文智	平成20年3月25日
鈴木 滋之	平成20年3月25日
吉崎 隆之	平成20年3月25日

平成19年度 論文博士学位記授与者名簿

氏名	授与年月日
Amen Hamdy Zaky	平成20年3月25日
加藤 祐司	平成20年3月25日
石井 秀幸	平成20年3月25日
執行 寛	平成20年3月25日
稲岡 努	平成20年3月25日

平成19年度 修士学位記授与者名簿

氏名	授与年月日
根本 和加子	平成20年3月25日
渡邊 充広	平成20年3月25日
伊藤 良子	平成20年3月25日
宮川 清誇	平成20年3月25日
大上 育子	平成20年3月25日
大谷 順子	平成20年3月25日
河江 伸枝	平成20年3月25日
佐藤 雅子	平成20年3月25日
大前 より子	平成20年3月25日
神 さおり	平成20年3月25日
高橋 淳子	平成20年3月25日
長谷川 博亮	平成20年3月25日
深川 知恵子	平成20年3月25日
藤長 すが子	平成20年3月25日
前田 陽子	平成20年3月25日
松倉 理江	平成20年3月25日
松野郷 有実子	平成20年3月25日
南山 祥子	平成20年3月25日

一年を振り返って



医学科第1学年 西條 正二

旭川医科大学の合格を知った時、ずっとどこか遠いものにある気がしていた大学生になるということが現実のものになって、喜びや期待、不安以上に何か複雑な思いがしていました。早いものであれからもう一年がたとうとしています。振り返ってみればこの一年はいろいろなことがあったけれども、自分の価値観が大きく変わり、いろいろな意味で自分を成長させてくれた充実したよい一年でした。

入学当初抱えていた思いは先輩方がすすんで話しかけてくれ、よい友人にも恵まれ、次第に霧散していきました。また部活やアルバイト、試験勉強といった毎日の忙しさは浪人時代の模試の日々とはまた質の違った良い刺激となりました。

勉強に関しては、今までとはまったく違った学び方だと思いました。今までの勉強は自習したことを

元に考えて試すことの繰り返しだったのですが、大学の勉強は日々新しいことを取り入れていく必要があります、今学んだことが実際の医学そのものなんだという新たな感動がありました。

特に前期の早期体験実習では実際の医療現場で患者さんと話し、医学の勉強を始めることへのモチベーションが高まりました。後期の組織学実習では、それまで勉強してきた「生物」という学問から初めて「医学」という学問が始まり、自分がどんどん医療の世界に近づいているという実感が湧いてきました。また一年を通して履修した医学チュートリアルは、今までの自分で考えて解答を創り出す学問とは異なり、いかにしてその場で自分が思いついたアイデアを他の人に分かってもらえるか、そして、他の人の考えをその場でどのようにして理解し取り入れるかという、医療に限らず社会で生きていく上で重要なスキルを学習することができたと思います。

私には自分に足りないと思うところが多く、医療現場に出るまでもっと社会性を身につけなければならないと考えていますが、同時に大学にはそれを学ぶための環境が用意されていると思います。これからも日々の学習を通してそれを学んでいこうと考えています。

一年を振り返って



医学科第1学年 坂本 鉄志

まだ雪の残る旭川、凜としたはりつめた空気の中、入学式の会場へ急ぎ足で歩いていた自分が思い出されます。桜が満開の東京からきてもう一年が過ぎようとしています。

合格発表日、その日は間違いなく自分の人生の中で大きな転機の日。一度大学を卒業した私にとって二度目の大学生活の始まり。医師になろうと決意し、家族を含め多くの人に迷惑をかけ、そして支えられ、紆余曲折の果てにたどり着いた入学式の会場。部活勧誘の先輩方で一杯の風景は、暖かく懐かしい景色でした。

同期には私と同じように一度大学を卒業し、再入学した人。そして自分より一回り若い世代達。どう友人関係が築けるか不安もありましたが、よき友人にめぐり合えたような気がします。

想像していた大学生活とは違い、部活動に精を出

した一年でした。医大祭、夏休み、東医体、熱気のこもる灼熱の体育館。そして冬休み、極寒のカムイスキーリンクス。自分のできる範囲の中ですが精一杯やりました。

旭川医科大学は先生方がとても親切で勉強する環境としてはとてもいい環境でした。一年生ということもあってこの一年で勉強した事はまだ医学のほんの一握り、これから学ぶべきこと体験すべきことが私を待っています。それでもこの一年で医師に少しでも近づけたということは喜びです。医学を学ぶ上で自分が今まで勉強してきたことはどうすればいきるのだろうか、一年考えましたがうまく答えは出ていません。これは私にとって今後の課題です。

充実した一年にしたいと考え無我夢中で過ごした一年だったと思います。それでも出来たことより出来なかったことのほうが多く、時間だけはいつも足りません。そうこうしている間にまた春が来ます。新たな出会いが待っています。新入生も入ってきます。この一年いろいろな人に支えられ助けられました。私もまた助けになるよう精一杯頑張る日々を過ごしたいと思います。

一年を振り返って



看護学科第1年 坂田 菜月

春が近づき、雪解けが始まると、一年前が思い出されます。一年前も、私はここにいました。しかし、その時は旭医師ではなく、不安だらけの受験生という立場でした。

この大学に入学することができ、不慣れな大学生活に四苦八苦していたころの自分を懐かしく思います。医療職への第一歩を踏み出し、「看護とは」から始まって学び続けてきたこの一年間はとても充実したものでした。自分の将来に直結する学問だと思うと、とても身が引き締まる思いになります。看護学科は1クラスで60名という、比較的大規模な集団ですが、個性豊かで、また、各々が看護への特別な思いをもっているように思えます。普段の賑やかな様子も講義では真剣そのもので、各々が切磋琢磨できる良い場に恵まれたと思います。大学に入り、

様々な出会いを経験し、人との結びつきというもの大切さを学んでいると実感している日々です。

今年度は看護学科1年生の実習が例年より早い時期に行われました。この半年間で学んだ数少ない看護技術で何かできることがあるだろうか、また、自分が看護援助を行った患者さんはどのような思いを抱くのだろうかと不安と期待が入り混じったまま実習を迎えました。実際に病院で実習を行うと、わからない病名や臨床用語ばかりで、自分はまだ医療職への道の初歩の初歩にいるのだと痛感しました。そのような実習ではありましたが、多くの患者さんと出会い、看護を通して過ごした日々はとても貴重であり、また忘れられない一週間となりました。

実習やレポートに追われ大変な日々もありましたが、一年があっという間に過ぎていきました。来年度は、もっと多くのことを学ぶことになると思います。今後は、この一年間で学んだことを土台として来年度に活かすことができるように、より積極的に勉強に励んでいきたいと思っています。残りの三年間もあっという間に過ぎ去っていくと思いますが、充実した大学生活を送っていききたいと思っています。

一年を振り返って



看護学科第1学年 中内 蘭子

早いもので、4月に入学してもう1年が経とうとしています。入学当初は、初めてのことばかりで不安な日々を過ごしました。大学の部活動がどのようなものなのかもわからなく、勉強もこれからどんな勉強をしていくのか、どれくらい大変なのか、先生はどのような人たちなのかと疑問だらけでした。毎日が新しいことの連続で、夏休みまでの3ヶ月間は怒涛のように過ぎていきました。楽しいこともたくさんありましたが、辛かったこともありました。それは、バス通学という実家生の悩みです。私の家から大学まで行くには、バスを乗り換えして約50分かかりました。・・・辛かったです。何度もくじけそうに、また、心が折れそうになったこともありました。(今は、大丈夫)

夏休みを終えて待っていたのは、大学で初めての

テストでしたが、見事に泣きを見ました。それにより、後期は、絶対に失敗してなるものかという大なる野望が芽生えました。この悔しさは、後に私を強くさせてくれたと言っても過言ではありません。そのあと、初めての実習が待っていました。実習を通して、これからの自分になりたい看護師像が見え、学習へのやる気や目標ができました。

そして、あっという間に冬休みになりました。去年は受験だったということもあり、静かな落ち着いた冬を過ごしていましたが、今年は大学でできた友達とワイワイと楽しい冬を過ごすことが出来たと思います。冬休みが明けると、すぐに後期試験期間に入りました。後期は、前期の反省を活かし、何とか乗り越えることが出来ました。一緒に頑張っている友達や先輩方と励まし合いながら最後まで頑張りぬくことが出来ました。

こんな風に私の大学1年生が過ぎていきました。この1年を通して、将来の目標や大事な仲間を見つけることが出来ました。2年目はテストや実習もより大変になり、忙しくなると聞いています。1日1日を大事に頑張りたいと思っています。

外国人留学生冬季交流事業



氷瀑まつり



平成19年度外国人冬季交流事業が、3月6日(木)・7日(金)の両日にわたり本学に留学している学生とその家族と関係事務職員及び本学に研究者として在籍する外国人とその家族の計16名が参加し実施されました。

これは冬の北海道の代表的なイベントとなった氷瀑まつりを見学してもらい、北海道の厳しい寒さと大学近郊の特徴に理解を深めながら、温泉施設に宿泊し他国の留学生同士及び外国人留学生と教職員との交流を図ることを目的としたものです。

今回、参加いただいた外国人の方々国籍は、中国・台湾・イラク・エジプト・オーストラリア・イギリスの6カ国にわたり、国際色豊かな交流事業となりました。

層雲峡温泉の温泉施設で交流会を実施し、終始和やかな雰囲気の中で留学生と研究者・職員との情報・意見交換が行われました。

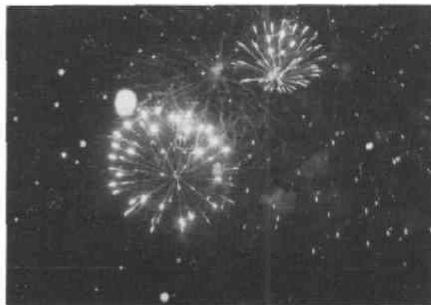
交流会終了後は氷瀑まつりの見学と温泉を体験していただきました。

氷瀑まつりでは人工的に作られた氷柱等がカラフルにライトアップされた幻想的な風景や花火を楽しんでいただきました。

温泉では源泉かけ流しの湯により、日頃の研究や生活で疲れた身体も癒されたことと思います。



花火



ギター部ニューイヤーコンサート



短い冬休みも正月ボケも過ぎ去った1月19日(土)18時50分より入院されている方々に冬の夜を音楽で癒していただくことを目的とした本学の学生団体であるギター部のニューイヤーコンサートが開催されました。当日は入院されている方々はもとよりお見舞いにこられた方々、近隣から来られた方々により大変盛り上がったコンサートとなりました。3月には卒業を迎える部員にとっては、2月の国家試験を前にしての最後の演奏会となることから、日頃の練習の成果を最大限に発揮し演奏していたのが印象的であり、その姿に多くの拍手が贈られていました。



平成19年度 1年のあゆみ

入学式4月6日(金)

医学科入学者 90名
看護学科入学者 60名
看護学科3年次編入学者 10名



新入生合同研修会 4月9日(月)・10日(火)



▲BLS+AED



▲手話の演習



◀健康チェック

第32回医大祭 6月8日(金)・9日(土)・10日(日)



▲模擬店



▶ゲームコーナー



◀古本市



▶フリーマーケット

第54回北海道地区大学体育大会 (分担種目 弓道) 7月14日(土)・15日(日)



◀開会式



▶表彰式



◀競技風景



▶競技風景

音楽の夕べ 7月28日(土)



◀室内合奏団



▶ギター部



▶合唱部



▶ブラスアンサンブル

平成19年度 1年のあゆみ



外国人留学生
夏季交流事業
8月3日(金)



◀バスケットボール

ソフトボール▶



体育大会
8月29日(水)



サッカー▶

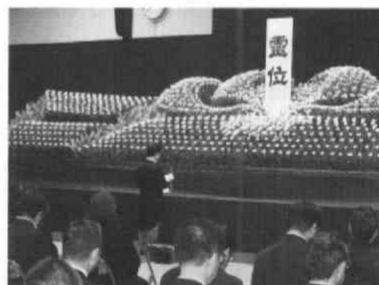


◀バレーボール

医学科第2年次後期
編入学生入学式(10名)
10月1日(月)



解剖体慰霊式 9月19日(水)



▲室内合奏団

クリスマスコンサート
12月9日(日)・22日(土)



▲ブラスアンサンブル



▲合唱部

学位授与式 3月25日(火)

医学科	96名
看護学科	70名

各種保険について

本学が薦めている保険の概要は、下記の図のとおりです。

③ 学研災付帯学生生活総合保険A・Bタイプ ※3階部分	
内容	傷害・損害賠償を24時間補償&針刺し事故を補償
補償金額	死亡補償金 Aタイプ Bタイプ 300万円 対人賠償 Aタイプ・Bタイプ 1億円限度 対物賠償 Aタイプ・Bタイプ 1億円限度 感染予防費用 保険期間中50万円
掛金	学生生活のしおりを参照してください。
加入の是非	看護学科/医学科第1～4学年 任意加入 医学科5・6学年 加入を義務付けている(臨床実習のため) ※学生教育研究災害傷害保険及び医学生教育研究賠償責任保険(医学賠)に加入していること。
② 医学生教育研究賠償責任保険(医学賠) ※2階部分	
内容	正課中、学校行事中、通学中に、他人にケガをさせたり、他人の財物を壊したことにより被る法律上の損害賠償を補償
補償金額	対人賠償と対物賠償合わせて 1事故につき1億円
掛金	6年間 3,000円 4年間 2,000円※1年間500円
加入の是非	入学時加入を義務付けている ※学生教育研究災害傷害保険に加入していること
① 学生教育研究災害傷害保険(学研災) ※1階部分	
内容	正課中、課外活動中、通学中及び学校行事中に本人が傷害等の事故にあった場合
補償金額	死亡補償金 正課中 2,000万円 課外活動中 1,000万円 傷害補償金 正課中 治療日数4日以上から 課外活動中 治療日数14日以上から 入院 1日 4,000円
掛金	6年間 5,400円 4年間 3,900円
加入の是非	入学時加入を義務付けている

詳細については、学生支援課学生係にお尋ね願います。

本学では、学生諸君の学生生活及び日常生活に対して上図のような保険を用意して、加入を薦めております。

①学生教育研究災害障害保険(学研災)は、学生生活中に負った本人の傷害等の保険です。加入を義務付けております。

②医学生教育研究賠償責任保険(医学賠)は、学生生活中に他人から損害賠償を求められた場合の賠償補償保険です。加入を義務付けております。

③学研災付帯学生生活総合保険A・Bタイプは、日常生活24時間をカバーする傷害保険と賠償補償保険です。加入は任意ですが、医学科5・6学年は臨床実習に備え加入を義務付けております。

平成20年度日本学生支援機構奨学生の募集について

日本学生支援機構は、優秀な学生で経済的な理由で就学困難な者に学資を貸与しています。

本学では、日本学生支援機構からの推薦依頼に基づき、出願者の種々の条件を考慮して選考を行い、日本学生支援機構へ推薦します。ただし、日本学生支援機構では奨学金貸与の種別ごとに推薦基準が定められており、その資格があっても採用枠の関係で推薦できない場合があります。

平成20年度の募集説明は4月9日(水)午後5時から看護学科大講義室において実施します。希望者は必ず出席してください。

なお、募集の時期以外に家計の急変により、学資の支弁に困難な事情が生じた場合は、学生支援課学生係に相談してください。

平成20年度 前期分授業料免除及び延納・分納について

平成20年度前期分授業料免除及び延納・分納を希望する学生で、免除基準のいずれかに該当すると思われる者は、学生支援課学生係にて必要書類を受け取り、期限までに提出してください。

免除基準の概要はつぎのとおりです。

- 経済的理由で授業料納入が困難であり、かつ学力優秀と認められる場合
- 授業料納期前6か月以内において学資負担者が死亡、又は風水害等の災害を受け、授業料納付が著しく困難であると認められる場合

なお、このことについては、公用掲示板にも掲示してありますので確認してください。

また、不明な点は、学生支援課学生係に問い合わせ願います。

申請期限 在学生 平成20年3月31日(月)

新入生 平成20年4月9日(水)

※授業料滞納者の授業料免除申請は、受理できませんのでご注意ください。

授業料未納による除籍について

授業料を2期滞納し所定の期日までに納入されない場合には、除籍となります。

この取扱いは、平成17年度から適用されていますので、平成20年4月1日において授業料を2期以上滞納している場合、平成20年9月30日をもって除籍

となります。

以後授業料納期である6か月ごとに適用されますので、授業料の支払計画をきちんと立てるようご留意ください。

(学生支援課)

セクシャルハラスメントについて

学生等のセクシャル・ハラスメント相談員

学生等のセクシャル・ハラスメントの相談員は次の方々です。

任期は平成21年3月31日までとなっております。

☆一般教育 松岡悦子(社会学准教授)

☆基礎医学 清水恵子(法医学講座教授)

☆臨床医学 田中達也(脳神経外科学講座教授)

☆看護学科 阿部修子(看護学講座准教授)

☆保健管理センター

川村祐一郎(保健管理センター准教授)

藤尾美登世(保健管理センター保健師)

新入生歓迎合宿のご案内

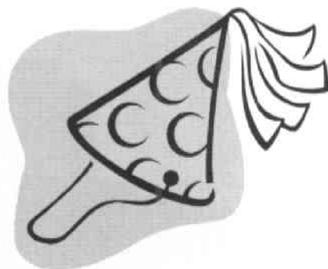
皆さん、ご入学おめでとうございます。我々、新歓委員は右も左もわからないであろう新入生の皆さんのために新入生歓迎合宿というものを用意しています。日程としては、入学式の翌日からなので4月5日(土)、6日(日)に行います。気になる内容についてなんですが、まず、学内では大学見学、部活紹介、出店といった行事があります。ひとつずつ補足していきますと、大学見学では一年生で使う教室などを私たちが案内します。部活紹介はその名の通り数多くある部活が皆さんを勧誘しようと趣向をこらした部の発表をしてくれます。出店というのは部活などに自分のメールアドレスを教えたりする感じですね。そこで沢山の部活に書いておくと後々いいことがあるかもしれませんよ??

続いて、ホテル「ときや亭」に場所を移動します。そこでは、みんなで食事したり盛り上がりたりと新

新入生歓迎実行委員会

入生同士の距離がぐっと縮まること請け合いです。また、大学よりもさらに積極的な「乱入」という部活の勧誘があるので気になる部活にはどどん顔を出してみてください。

ここで書いただけではどんな行事かまだつかめないということも多いでしょうが、この新歓合宿に参加したことがきっかけで仲の良い友達を見つけたり、自分にあった部活を決めたりした先輩も沢山いるようです。参加して後悔させることのないように我々新歓委員は入念に準備をしてきました。ぜひ参加して旭川医科大学での生活を楽しいものにして



学生団体の「継続届」「設立届」の提出について

平成20年4月以降に学生団体活動（部活）を継続する団体の責任者は、4月中に「学生団体継続届」を学生支援課学生係に提出して下さい。なお、継続届を提出しない団体は活動を停止したと判断し廃部とします。

また、新規に学生団体の設立を希望する学生は

4月中に学生支援課学生係に「学生団体設立届」を提出して下さい。なお、設立届の提出時に活動内容等に関する説明を求める場合がありますので「活動内容が同じ様な団体がある」等、安易な団体設立は避けて下さい。各届出用紙は学生支援課にあります。

教員の異動

H20.3.1	昇任	医学部内科学講座(循環・呼吸・神経病態内科学分野)	准教授	佐藤伸之
H20.3.1	昇任	病院臨床検査・輸血部	准教授	紀野修一

体育館更衣室（シャワールーム）について

131号でお知らせしておりました、体育館の更衣室の物品の入替えが2月14日（水）に行われました。ここは、体育館を始めとする運動施設を利用する者が着替えをするための更衣室であり特定の学生団体や個人が占有する場所では無いのもちろんのこと、勉強する場所でも食事をする場所でも無いことをあらためてお知らせします。

今後は、定期的に清掃することとしましたが、利用者は当然、清潔に利用することと思います。以前と同じように私物を放置する状態が見受けら

れば利用制限を考えなければならないかもしれません。最近は大学内が色々と改修されてきれいになっておりますが、利用者がだらしないとすぐに元に戻ってしまうでしょう。こんな心配をしないで済むように清潔な利用を心がけてください。

なお、4月より体育館2階トレーニングルーム及び体育館更衣室（シャワールーム）は体育館と同様に夜22時00分から朝6時00分までの間は施錠されますので利用時間を厳守してください。

学生支援課

